

【行動提起】

自助を押し付ける全世代型社会保障改革阻止、75歳以上医療費窓口負担2割化
ストップ！コロナ禍の今こそ、人権としての社会保障を実現させよう！！

2021年2月23日

京都民主医療機関連合会

まちづくり政策部

連日のご奮闘に、心より敬意を表します。1月18日より、第204回通常国会が始まりました。全世代型社会保障改革のたたかいはいよいよ正念場を迎えます。

菅内閣は、2月上旬にも75歳以上医療費窓口負担2割化や医師の働き方改革、200床以上の病院に初再診時定額負担の徴収義務の拡大などの法案を国会に提出する構えです。第10回全日本民医連理事会にて、【全世代型社会保障改革阻止 アピール】を確認しました。

各法人、事業所で具体化し、早急に取り組みを強め、社会保障を解体する全世代型社会保障改革を何としても阻止しましょう。「すべての人が等しく尊重される社会」を実現するために、次のことを呼びかけ以下6点の提起致します。

記

1. いのちの相談所の取り組みとして、医療・介護・福祉を守ろうの声を広げ困難を抱える人々に寄り添い行動しましょう。
2. 全世代型社会保障改革の全体像把握のための学習に取り組み、コロナ禍にあつて十分な感染対策などを行いながら宣伝、署名活動に取り組みましょう。
3. 75歳以上医療費窓口負担2割化に反対する請願署名の取り組みを進めましょう。
4. 「いのち署名」(はがき署名)「いのち守れ」の運動を至急、広げていきましょう。
5. 現場の実例をもとに地域要求を事業所の関わる自治体へ届けましょう。
6. これらの課題を共同組織、地域、様々な団体と、ともにすすめていきましょう。

以上